

視聴覚教育

NO 66

発行月 10.1

発行 岡崎市AVL

編集

広報委員会

学校放送教育賞で

三島小が文部大臣賞受賞

第七回「学校放送教育賞」の共同研究の部で、三島小が「ごん文部大臣賞受賞の栄誉に輝いた。これは、当校が過去4ヶ年にわたって、子どもたちひとりひとりの主体的な学習態度を育てるための放送学習の研究実践に取り組んできた成果が認められたものである。

その実践研究の重点として、日常性を重んじたTV番組の利用という点から、生、丸ごと継続視聴を行って来たことがまずあげられる。一方、親子で学ぶための環境づくりとして、親子同時視聴を進めているのも大きな特色である。親子同時視聴の結果、子どもの帰宅後、その日のTV番組について親子で話し合う場面も見られるようになり、円満な親子関係の成立にも一役かかっている。

AV倍報 FM放送

- ・雑音が少なく、音質がよい。
- ・超短波を利用した放送で、FM愛知、NHKFM等がある。
- ・電波に指向性があるので、アンテナの向きを考慮する。

サークル 10月の活動



とき 10月11日(土)
PM 6:00
ところ 六名町たき書会
なかみ 読書会
放送教育実践12・14

このような基礎の上に立ち、本年度は、特に授業におけるパターンの研究に力を入れている。
表彰については、10月8、9日に札幌市で開催される放送教育全国大会の席上で行われる。

大きな反響を呼んだ美川中研究会
去る9月24日に行われた美川中研究会には、遠くは岐阜県よりの参加者も含む市外58名、市内56名の参加者を得た。多くの成果があったが、特に「みどりの地球」をもとに実践化にまで発展させた学習の試みは、全国でも初めてのものであり、学校裁量の間際の活用の方の一つを示唆するものとして、大きな反響を呼んだ。

ゆとり時間のテレビをゆとりあげて

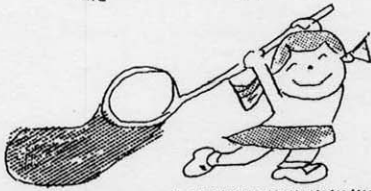
羽根小 小田 修治

テレビばかり見ていてという父親の声をよく耳にする。ところが、テレビをこのように効果的に見せているという積極的な工夫が、ほとんどなされていないのが実態である。

テレビの善悪や視聴時間を問題とするより、テレビのもっている良さを生かした見せかたや利用していかうとする態度を身につけさせようとする努力することが大切であると考え、ゆとりの時間に次のような実践をした。

NHK「ウルトラアイ」を各家庭で視聴させ、ゆとりの時間に話題としてとりあげた。そして、感想や意見を発表させ、テレビ番組のなかにも、学習に役立つものや、生活の見直しを考えさせるものがあり、もっとテレビを積極的に利用していかうという意識を高めることができたと思う。

今後、ゆとりの時間で良い番組を話題にし、それとともに、教育テレビの放送番組も学習の中で生かすことを大切に、視聴カードづくりへ取り組ませていきたいものだと考えている。



新番組入16フィルム紹介

ライブラリーでは、新たに社会教育関係の16ミリフィルム日本を購入した。その内訳は、次に示したようである。社会教育はもちろんのこと、学校教育にも大いに活用していただきたい。

「見知らぬ人のさそい」	20分	社会教育
「ぼく学校はまじらい」	30分	社会教育
「わが家の第三日曜日」	30分	社会教育
「十代の非行と親の責任」	30分	社会教育
「愛されるお年寄りに」	29分	社会教育
「他人の足を叱った私」	31分	社会教育
「交通安全は家庭から」	25分	交通安全
「家のかけはし」	30分	社会教育
「母さんは歌ったよ」	48分	児童劇
「お百姓の足、坊さんの足」	22分	動画
「雪の女王」	20分	動画